

Title	太宰治スタディーズ 第7号 編集後記 奥付
Author(s)	
Citation	太宰治スタディーズ. 2023, 7
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/92830
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

太宰治スタディーズ

太宰治スタディーズ 第7号
2023年9月30日発行
「太宰治スタディーズ」の会

発行者：「太宰治スタディーズ」の会

発行所：斎藤理生

〒560-8532

大阪府豊中市待兼山町 1-5

大阪大学大学院文学研究科内

斎藤理生研究室

印刷：(株)ミッションサポート

編集後記

■「太宰治スタディーズ」第7号をお届けします。特集「太宰治と詩歌」は、初期から詩と縁の深い太宰作品の全体を見渡し、そこに織り込まれた詩を取り出して提示することで、太宰のまだ十分には知られていないと思われる側面に光を当てたいと企画したものです。

■近年、政治や労働の現場で用いられる言葉が〈ポエム〉と呼ばれるのをインターネット上などで見かけるようになりました。人々の希望や〈やりがい〉を喚起するかのように見えるえて実は空虚なだけの美辞麗句を今ではそう呼ぶのです。それとは逆に、空虚に見える言葉によって未知の意味を探り出そうとするのが詩です。〈ポエム〉にあふれる世界にいる限り、詩を学ぶことの重要さも高まるばかりだと思わされます。(N)

■三鷹市美術ギャラリー・太宰治展示室では、作家の机辺に残された書籍6冊の同書（川島幸希氏寄贈）を手にとって愉しめます。『改訂 上田敏詩集』所収のボードレール「信天翁」と太宰初の随筆集『信天翁』（1942.11、昭南書房）の照応を考えたり、『ルバイヤット』の訳者堀井梁歩の生き方が安倍能成に「デカダン」と評される一節に目を止めたりしました。

■本誌第6号刊行は2016年6月でした。別冊第3号、『太宰治と戦争』が続きましたが、本冊は7年振りです。コロナ禍でも研究会はオンラインで継続しました。こうして会員が協力して一冊の成果を皆さまにお届けでき、言葉だけでは表せない想いが溢れます。(O)

■印刷・製本では株式会社ミッションサポート様が大変お世話になりました。

■第6号より、大阪大学学術情報庫 (<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>) で閲覧できます。「太宰治スタディーズ」blog (<https://d-studies.hatenablog.com/>)も再開します。